

【障がい者が過ごしやすい環境づくりの一助となる】【医療福祉1】

岡山県立高梁高等学校 2年次 三上朝陽・池田彩羽・大橋知夏・長浜楓月・大月凜子

1. 背景・目的

障がいは**見た目ではわからない**ものも多く、それぞれの障がいに対してどんな対応すればいいのかわからない。
→医療現場や日常生活でのそれぞれが患っている病気や障がいの特徴について **ひと目でわかる**ようにしたい！

2. 実験・調査

①インターネット や本での情報収集

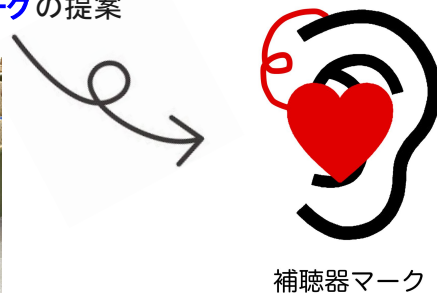
- ・手話に焦点を当てて調査
→様々な障がいへと調査対象を広げる
- ・マーク調べ

②市役所への訪問

- ・福祉課の方に障がいへの高梁市の現状と課題の質問
- ・作成した**マーク**の提案

③福祉フォーラムへの参加

- ・実際に様々な障がいの体験をし、理解を深める
- ・福祉課の方にマークや障がいについての話を聞かせてもらう



3. 結果

①インターネットや本での情報収集

【身体障害】



全人口における障がい者の割合は7.4%でそのうち聴覚障がい者が19.7%で約30万人いる。
→聴覚障がいだけでなく他の障がいも調査したい

③福祉フォーラムの参加

- ・手話・障がい体験・白杖・車いす体験・ヘルプマーク
- ・点訳などを体験することで実際にどのような生活を送っているのか知ることができた。

②市役所への訪問

- ・高梁市の現状
→障害者総合相談センターの設置や障がい者の交流の場の提供をしている
- ・課題
→みんなに知られていないマークが多く、実際に使われているマークは少ない

④ポスターの作成

健常者の方々にヘルプマークの意味や、マークをつけている人を見かけたときの行動について考えてもらうことが目的。
ヘルプマークの説明文も作成し誰にでも分かりやすいポスターにした。



4. 考察

私たち自身がもっと障がいについて
理解を深めておく

啓発活動

6. 参考文献

【聴覚障害者×障害雇用】なぜ聴覚障害者の『良い決定』が生まれやすいのか。
他社事例から見る採用ノウハウをオンラインで解説！
<https://digitalpr.jp/r/55199>

障害者に関するマークの一例
<https://www8.cao.go.jp/shougai/mark/mark.html>

5. 結論と展望

【結論】障がいについて多くの人に理解してもらうため、
今あるマークを通して知ってもらうことが大切

【展望】ヘルプマークを中心に取り組んだことから、ヘルプマークを広めることが大切だとわかり、今後は自分たちで**講義などを開催する立場**となって活動を続けていきたい。
最終的には、SDGsの目標である「すべての人に健康と福祉を」の実現の一步につなげていきたい。